



北相模総守護社
亀ヶ池八幡宮



龜ヶ池

第6号 [平成21年1月1日発行]

発行／亀ヶ池八幡宮社務所
〒229-1123 神奈川県相模原市上溝1678
TEL.042-751-1138 FAX.042-757-3811
URL <http://www.kamegaike.jp>
E-mail: info@kamegaike.jp



平成20年 例大祭・御神威を仰ぐ



志操堅固

いちよう

科学技術の発展や高度情報化社会の中で、子供たちの持つ携帯電話は小学生で三割、中学生が七割、高校生にいたっては実に九割と言われている。子供の居場所が一目瞭然とわかるGPS機能付きで即刻に親子の連絡ができ、また犯罪防止に役立つ利点があり、安心安全で持たせているようであるが、反面子供同士悪口を書き込んだり、中傷文書を送ったりすることで、いじめに走り登校拒否などに発展するなど多くの弊害が生じている。

親は子供の要求を鵜呑みにして、すぐ与えることは反省しなければならぬ。

また、家庭では夜型の生活が多くなり、朝寝坊や朝食抜きの登校となり、授業に集中できず、すぐキレて机をたたき、教室から飛び出す等、家庭の放任や過保護による基本的な生活習慣の乱れから種々の問題が発生している。その基本的な生活習慣の確立は何と言っても家庭教育にある。親が身勝手な生活を送ってはいないか。注意はするが褒めることをしない。叱つてばかりいて子供の人格を認めない等……。子供が心身共に健やかに成長するには親の姿勢から変える必要がある。

ところで私たち日本人は、古より家庭に神棚を祀り毎朝拝む習慣を子供に身につけることにより、心の正しい、そして人を思いやる心を養ってきた。

今こそ家庭祭祀の厳修を切に願うものである。

年頭のご挨拶

宮司 根岸信行



新年明けましておめでとうございませう。

己丑年の年頭にあたり、謹んで

新春のお慶びを申し上げますとともに、皇室の弥栄と氏子崇敬者の皆様の平安とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年は、今上陛下御即位二十年の慶賀の年を迎え「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民の集い」が全国津々浦々で開催され奉祝申し上げましたが、本県では今年秋

に奉祝行事を計画しており、県民挙げてお祝い申し上げます。

さて、一方社会では、激動の一年でありました。

米国から発したサブプライム問題により百年に一回の暴風雨と言われる金融危機による株価低迷、企業倒産、失業者増大、消費の落ち込み等々の経済破壊が起き、未曾有の年でありました。

本年は、雄々しい勇壮な「丑」年であり、牛歩の如く遅くとも着実な歩みの中で、元氣を取り戻し希望に満ちた平穏な年でありたいと願うものです。

中秋の名月の下 例大祭齋行



平成二十年当八幡宮の例大祭は九月十四日(日)に斎行されました。

今年も九日に発生した台風が祭典を直撃するかと心配されました

が、晴天に恵まれ午前十時に式典が斎行されました。

境内では少年剣士による奉納剣道大会、また久保・四



また久保・四

ツ谷囃子連の祭囃子が賑賑しく行われました。江戸時代より引き継がれ、相模原市有形民俗文化財に指定されている



番田神代神楽が楽師により神代の神話仮面劇が実演され、時の経つのも忘れ見入る中、夕日が沈んでいきました。

夜になり、参拝者が一段と増えてきました。氏子崇敬者による熱のこもった舞踊や

カラオケ、地元出身で相模原市の民謡「てるて姫」を題材にした「てるて姫伝説」等を唄った「平浜ひろしショー」で盛り上がり

天皇陛下御即位20年奉祝記念事業 (仮称) 儀式殿建設の御報告



昨年は、天皇陛下御即位二十年の御代に当たり、全国の神社において、奉祝記念事業が執り行われておりましたが、当八幡宮でも、奉祝記念事業

の計画を役員会で審議し、結婚式等の祭典が御社殿以外でも斎行でき、かつ祈禱者待合室としても兼用できる施設が必要との結論に達し、(仮称)儀式殿を建設することになりました。

そこで、例大祭終了後の九月下旬に地鎮祭を斎行し、十一月中旬・小春日和の吉日に上棟祭が執り行われました。今春の無事竣功を祈念しながら、ここに中間報告と致します。

例大祭が朝から晴天に恵まれ、数十年に一度巡ってくるかどうかと言われる程に珍しい中秋(十五夜)に当たり、更に例祭を祝うが如く月明かりの下執り行われたことに、参拝された老若男女の皆さんは神様より多くの幸福を戴いたと、満足気でありました。

謹賀新年

宮司 根岸 信行

禰宜 根岸 浩行

権禰宜 根岸 千恵子

福田 満理

林 優司

平本 圭

責任役員 清水 亮

小 林 亮

竹内 一郎

鈴木 正彦

根岸 良郎

世話人 (四ツ谷) 米山 侃

吉川 和宏

笹崎 金平

中村 善一

門倉 國政

鈴木 敬信

中村 之三

(日金沢) 上島 茂三郎

吉川 佳一

加藤 光明

(本町) 山田 昌士

五味 文市

金指 幹夫

(石橋) 松本 茂

無藤 一男

(元町) 村上 亨

村山 昭人

山田 好男

(田中) 佐藤 林一

北島 捷隆

永和 道隆

(田尻) 関田 清

関田 清

(番諏) 金沢 博文

清水 恵二

(虹吹) 金子 兼吉

金子 俊次

(丸崎) 大野 寛次

鈴木 武雄

(本久) 佐藤 正義

佐藤 巨玄

(石住) 田中 正志

氏子会への入会ご希望の方は右記総代世話人へご連絡ください。

当宮神職活動報告 其の一

当八幡宮に奉務する神職が、日頃どのような研修を積み、社会にどう奉仕しているかなどを社報に掲載して参りたいと存じます。今回は、根岸千恵子権禰宜の活動を取り上げました。



神社本庁委嘱教誨師とは(一)

根岸千恵子権禰宜は神社本庁(神道)より平成7年に教誨師に委嘱され、法務省所管施設である相模原市小山地区にある神奈川医療少年院で活動しています。

この施設は、家裁で少年院送致の審判を決した12歳以上20歳未満の少年男子を収容し、知的障害及び情緒的未成熟な子で個々の少年に応じた治療的教育を行い社会復帰を図っています。

家庭的にも恵まれず非常に不安定な環境の中で育ってきた少年達を、月に数回施設訪問をして、母親的立場で少年に向かい合い、神職の立場を踏まえながら面接指導しています。

次号からは、その教誨活動の一端を数回にわたり掲載させていただきますので、よろしく願いいたします。



昨年十一月二十七日、横浜ロイヤルパークホテルにて県下神職・氏子総代、五百余名が参加のもと、天皇陛下御即位二十年を記念し、神社関係者大会が開催されました。

第一部の式典では、神社本庁統理をはじめ多くの来賓を迎え、各位より祝詞を

賜り、第二部の記念講演では慶應義塾大学教授で皇族でおられます竹田家の竹田恒泰先生による演題「皇室の弥栄」の講話を戴きました。

第三部の懇親会では、本県青年神職による「親子で楽しむ日本の神話」と題し、「天の岩屋戸開き」「八岐大蛇退治」の二幕の公演があり、時間の経つのも忘れる程、楽しく有意義な懇親会でありました。

この大会において、根岸信行宮司と根岸千恵子権禰宜は神社神道興隆に寄与された功績で表彰状が贈呈され、参列者より盛大な祝福を受けられました。

奉祝 天皇陛下御即位二十年記念 第二十八回神奈川県神社関係者大会



昨年十一月二十七日、横浜ロイヤルパークホテルにて県下神職・氏子総代、五百余名が参加のもと、天皇陛下御即位二十年を記念し、神社関係者大会が開催されました。

賜り、第二部の記念講演では慶應義塾大学教授で皇族でおられます竹田家の竹田恒泰先生による演題「皇室の弥栄」の講話を戴きました。

兼務神社めぐり 其の一

亀ヶ池八幡宮では、例祭・七五三等の年間祭典を執り行っている兼務神社(根岸信行宮司)が相模原市内二十二神社あります。社報(亀ヶ池)第六号より順次ご紹介いたします。

一、相原八幡宮

(相模原市相原六―五―二六鎮座)



に親しまれております。

当八幡宮の創建年代は不詳ですが、天慶三年(九四〇年)武蔵権守、小野義孝が粟飯原(あいはら)氏を名乗り、この地に進出した折に創建したと推察されます。

祭神は心神天皇及び素戔嗚尊とされ、明治時代に「外の御前社」と「日枝神社」が合祀され厄除け、子宝、安産、山の里の守護神として崇められています。



本殿は一間流造の形式で寛政十年(一七九八年)に再建されたものです。

境内には榎(市の保存樹木)、杉、銀杏等の大木に囲まれ、平成十八年に新築された神楽殿や明治四十二年に創建された稲荷

明神社も祀られています。

また、参道入口には、明治九年、地租改正に伴う地籍簿作成に当たり、この境内が「相原一番地」と定められた碑「相原起番地の碑」や本殿裏には境川の古称「高座川」碑も建てられています。

二、天満宮(相模原市当麻一鎮座)

(小林輝夫総代長寄稿)

地域にとつて必要性の高いこの天満宮は、日頃から地元の子供たちが集う場所であり、また地域住民の人々がそれぞれの願い事をする大変重要な神社であります。特にここ数年では学問の神と呼ばれているこの天満宮で、合格祈願された方々が「無事に合格した」との数々の噂が広がり、年々合格祈願に訪れる人たちが増えてきています。



そのような人気のあるこの神社は、総代役員方々により年々興隆している事は勿論のこと、その他、氏子崇敬者や奇特な会社等のご奉賛によつて着々と整備され活気が出てきています。御殿内・外装の改築、境内外周を囲うフェンスの設置を始め平成十九年に御宮の参道入口に「幟旗竿」が復元され、また平成二十年には燈籠や四阿、他多くの物が奉納されました。

まさに、古き良き地域の伝統を守りながら、ここに当麻天満宮は今も息づいています。



(関山茂芳総代長寄稿)

吉川啓示画伯 奉納千支絵画 其の四

吉川画伯の千支絵画を社報「亀ヶ池」に連載しご紹介してまいりましたが、今回を以て終了させていただきます。同画伯は日展に数多く入選され、相模原として誇れる偉大な画家でした。十二支絵以外にも「春暁富士」等奉納させていただきますので、またの機会にご紹介したいと思います。

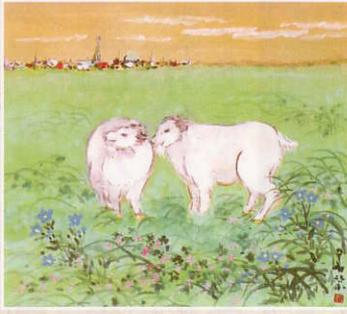
己

【艶花白日の図】
蛇は寸にして人を呑む。



午

【桜花勇駒の図】
馬には乗ってみよ、
人には添うてみよ。



【双羊草原の図】
激動の世の中、
ヒツジのように
温和に生きたい。

神社！ 知識豆

社殿の様式

社にお参りすると、社殿の建物がそれぞれ異なっています。その様式は



▲神明造

大きく分けて
一、神明造：高床式の穀物蔵の形から



▲大社造

発達したもの

一、大社造：古代の住居の形から発達したものの二つに分けられます。

「神明造」は代表的なものとして伊勢神宮の内宮外宮の正宮で、切妻造りの屋根の棟と平行の「平」側に入口があり、掘立柱の茅葺で特に唯一神明造と称しております。

また「大社造」は、代表されるものとして出雲大社の社殿で、切妻造の屋根の「妻」が正面に見え、昇殿口があります。

このほかに「八幡造」「春日造」等があります。

伊勢神宮式年遷宮御奉賛の御礼

伊勢神宮は皇祖天照大御神をお祀りする尊いお宮であり、古来より日本の総氏神として崇め、国家・国民の永遠の繁栄と平安を祈つてまいりました。この神宮で二十年毎に社殿を新造し御装束神宝を新しく整え、大御神に神殿へお還りを仰ぐお祭が式年遷宮で、今から約一三〇〇年前に行われており、来る平成二十五年に第六十二回目のお祭が斎行されます。

このお祭に当八幡宮として氏子崇敬者の



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

皆様にご浄財の御奉賛をお願いいたしましたところ、総代世話人のご協力により、昨年十二月末までに目標額を達成できました。ここに謹んで感謝申し上げます。御礼の御挨拶といたします。

お知らせ

平成二十一年節分祭

一、斎行日：平成二十一年二月三日(火)

二、式：典：午後三時

一、豆撒き師(年男・年女)

厄年の人(希望の方)

方は、当八幡宮へ

お申し込み下さい。

(当日も受け付け致します。)

夏越大祓式(茅の輪神事)

一、斎行日：平成二十一年六月二十七日(土)

二、式：典：午後三時

一、半年の罪穢を人形に移し清めて、心身共に蘇るお祭りです。

お申し込みは、当八幡宮までご連絡下さい。

(当日も受け付け致します。)



出張祭(外祭)のご案内

住宅やマンションなどを建築する時は、事故無く立派な建物が完成するように土地の神様をお迎えし、祈願する地鎮祭を行います。

また、工場で働く社員等が怪我なく、仕事に精励できるよう工場操業安全祈願祭また井戸埋立て、除禍祭等、神社より出向いて斎行するお祭りを出張祭と言います。

当八幡宮では、皆様のご希望に応じたお祭りを執り行っていますのでお気軽にご相談下さい。

